

11月23日(水・祝) 毛利台  
老人憩の家で釘丸久子議員が  
議会報告会を行いました。

### 《道路・交通・通学路》

○防犯灯がLED照明に変わり明るくなった。防犯灯が車道に向かっている歩道部分が暗いところがある。角度の検討が必要ではないか。

○前回の議会報告会で指摘したアスファルト舗装の道路の舗装が改善されて良かった。大型車が通るとのことだが、それも見越して道路を整備してほしい。

## 道路、防犯灯、観光バス発着所、通学路、映画館など話題豊富に

南毛利地域で議会報告会  
釘丸久子議員

○本厚木駅南口再開発事業の中で、神奈中バスの発着所を整備するということがだが、観光バスの発着所はどうなるのか。以前は厚木から出ていたものが海老名に移っている。観光客が利用すれば厚木市の活性化にもなる。

●中町2・2地区の整備事業の中で、観光バスの発着所をつくるという。

○通学路にガードレールをつけてほしい。

○南毛利小の通学路で、南毛利公

民館の周辺に住宅開発がされている。通学の安全のため歩道の整備をしてほしい。

○赤坂竹の内線が整備されるといいますが、その目的は何か。

●日産テクニカルセンターの通勤渋滞を緩和するためのものである。

○玉川の橋の工事によってカワセミの巣がなくなってしまう。

○厚木はずっと映画館がなかったが、アミューにやっできた。しかし新しい映画はなかなか来ない。

○封切から半年もすれば上映されるから、少し待っています。評価が定まってるからの上映だからいいと思う。

○厚木は年寄り子どもを大切にしている。親孝行宣言都市に反している。

つくしまふくしま未来支援センター特任教授天野和彦氏が話しました。(写真)



### 話題あれこれ

厚木市文化会館でいろいろありました。

#### 「人を紡ぐ・命を紡ぐ」

##### ―自治と交流―

11月26日(土)、第41回厚木市青少年健全育成大会がありました。テーマは「心のふれあいと夢をはぐくみ、ともに楽しみ学び育つ」です。

青少年育成活動推進者への感謝状が贈られたあと、市内15地区の育成会の代表が紹介されました。

地区活動、今年は厚木南地区です。ナイトウォークや防災キャンプ、三世代交流事業など地域の楽しいイベントを中心に笑いを取りながら発表していました。

最後は講演「人を紡ぐ・命を紡ぐ」地域で生きるために大切なこと、福島大学

「被災地・福島ではコミュニティが崩壊してしまっただけでなく、人がばらばらになった。寂しいと人は死ぬ。さみしくさせないために、交流と自治が大切。これは、被災地だけのことではない。全国で同じ課題がある。

孤独死の7〜8割は男性。復興公営住宅で交流と自治に支えられた住民参画事業「おでんプロジェクト」(11各人の技術(大工さん、指し物職人等)を活かして屋台をつくる。地元の素材を使ったおでん種も。住民が居場所をつくり出していく)を展開し、男性も集える居場所をつくった。災害時には弱いところが問

題になるが、普段やっていないことは、災害時にできない。人と人がつながる仕組みを、日常からつくっておくことが必要だ。」

青少年だけでなく、どの年代の人にも、また地域づくり、自治会活動にもつながっている話でした。まちづくりは自治と交流ということが、ぐっと体に入った感じがしました。

#### ふるさとを思う(二題)

11月23日(水・祝)は、全国県人会連合会の「ふるさと芸能発表会」。

オープニングの太鼓、開会式の後はお国の歌や踊りなど、趣向を凝らした出し物が続きます。宮城県人会が「塩釜甚句」、青森県人会が「津軽あいや節」、神奈川県人会が「神奈川よいとこ」。

厚木市民になってからもふるさとを通じた仲間がいるのは心強い。

### 《市立病院》

○市立病院では12月いっぱいまでシャトルバスを終了するというが、継続してほしい。他の市立の病院でも出しているところがある。市内の民間病院の送迎バスもある。患者さん確保のためにも必要なのではないか。

### 12月定例会議に出された請願・陳情 (11月29日)

別居・離婚後の親子の断絶を防止する法整備に関する意見書提出及び公的支援を求める陳情(個人)

若者も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める意見書を国に提出することを求める陳情(全日本年金者組合神奈川県本部)

最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書を国に提出することを求める陳情(神奈川県労働組合総連合)

人間らしい生活の保障を求める意見書を国に提出することを求める陳情(神奈川県生活と健康を守る会連合会)

公共施設でのインターネットサービスの復活を求める陳情(個人)

原発事故避難者に対する住宅無償提供の継続を求める意見書を国並びに福島県及び神奈川県に提出することを求める陳情(個人)

### 「ふらふら」

11月25日(金)には、ふるさとに住めなくなった人々を描いた映画「飯館村の母ちゃんたち土と生きる」を観ました。「なくそう原発あつぎの会」が主催した映画会です。

原発事故で地域の人々がばらばらに避難し、コミュニティが崩れ元気を失っていた女性が、仮設住宅でかつての隣家の女性と隣同士になり、「笑ってなきややってらんねえ」と、野菜作りをしながらふるさと野文化を伝えたいと明るく奮闘する姿。

時にふるさとを奪われた言葉にならない悔しさがにじむ。人と人との交流が、生きる必要であると感じる。

今議会では、福島から自主避難した方から、来年3月までの住宅支援打ち切りをしないようにとの陳情が出されています。